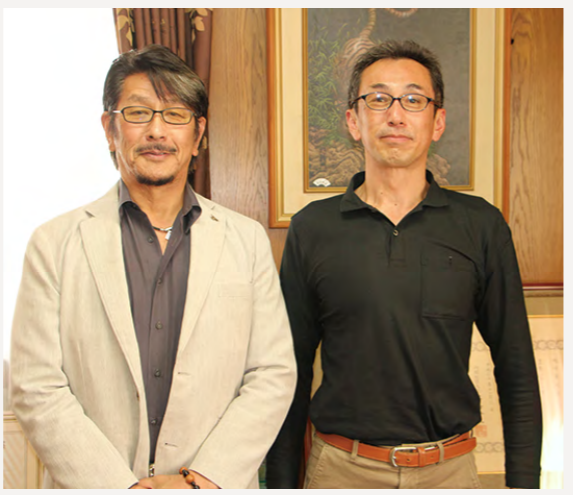


今、様々な業界で人手不足が大きな問題となっているが、レンタル業や仮設工事、足場工事でも人が足りない状況だという。そんな中、『ミライリスホールディングス』では、グループ各社も含めて新たな人材を募集中だ。

同グループでは四日市のコンビナート建設ラッシュを背景に、三重県下でいち早く建設機械レンタル業に参入。その後も時代やお客様のニーズに応えながらレンタル品の品揃えを拡大し、仮設足場やユニットハウス製造の工事部門も設立した。現在は、グループ会社（マツオカ建機、プライド物流、アシタル、ムービルト、加藤サービス、向陽信和）と連携しながら東海三県（営業拠点16カ所）で建設関連を総合的にサポートしている。

「特別なスキルや経験は必要ありません。入社してからマナーや必要な技能を学んでもらい、社員としてだけでなく、人としてどこに行っても恥ずかしくないように育てていきます」。人事評価制度においては「教育」を最重要視し、社員がどれだけ後輩社員の育成や指導に力を入れたかを基準に評価。口コミによる入社率が高く、満足度の高い職場であることが窺える。



## after the interview



「学生時代は家業を継ぐことは考えていらいっしょらなかつたという松岡社長ですが、今は経営者として事業の経営や人材の育成に力を注いでいっしょいます。その熱量がすごくて、やはり後継者としてふさわしい方だったんだと感じましたね。この厳しい時代の中で売上も規模も伸び続けているので、さらなるご発展が楽しみです」

# レンタルや足場工事、物流業など7社を有する地域密着のホールディングカンパニー

建設関連のレンタルリースをはじめ、仮設工事、物流業などグループ7社を有する『ミライリスホールディングス』。夢のある未来への架け橋となる会社を目指し、2022年4月に設立された。本日はタレントの野村将希氏が同社を訪問。事業として四代目になる松岡社長にインタビューを行った。



**ミライリスホールディングス 株式会社**  
三重県三重郡朝日町大字縄生字折戸 1026-1  
URL : <https://mirairis-hd.co.jp>

事になります。グループ全体で正社員の職を200名ほど抱えています。まだまだ人手が足りない状況ですね。

同業者さんも多いのでしょうか。

はい。レンタル業界の市場規模はあまり大きくないんですね。というの、内需型なので、お客様が受注しなければ我々の仕事も発生しません。さらに参入障壁が高いため、同業者はどれも業歴が長いところばかり。一朝一夕では難しいのですが、この東海3県は特殊で、当社のような地場大手が結構たくさんあります。そこに全国規模の大手も加わって、熾烈な競争が繰り広げられているわけです。

— その中でこちらのグループの特徴、強みはどこなところになるのでしょうか。

他社に比べて「狭く深く」手掛けているところが特徴であり、当社の強みでもあります。大手のレンタル会社は、例えばショベルカーを1000台保有して、1000人のお客様にお貸しするというスタイルだと思いますが、当社の場合は現場で使用する間から始まり、事務所のレンタル、足場工事、物流までトータルで任せてもらえる。ですから、お客様はあちこの業者に依頼するという手間も掛かりませんし、迅速な対応ができるんです。

— 大手さんと同じ路線を行くのではなく、独自路線で成長してこられたんですね。

はい。お客様の中でも大手企業になると購買部門や工事部門は東京で一括して管理されています。そうすると、レンタル会社や足場工事会社も全国展開している業者のほうが使いやすいでしょう。私共では遠方だと持っていくだけで時間も費用もかかってしまいます。ですから、大手と同じやり

方ではとても勝ち目はないんですよ。

— それで「狭く深く」なんですね。では、社長がお仕事の上で、大事にされていることは何ですか。

皆で「何のために会社はあるのか」ということについて議論したことがあるんですね。私自身、事業を引き継いでいる身なので、創業社長のようなバイタリティやモチベーションを維持し続けるのは難しい。そもそも、何故会社をやるべきなのかと話し合ったんです。その議論で出た答えが、「社員をハッピーにすること」でした。「この会社に入って良かった」と社員の皆に言ってもらえるように。社員の皆が幸せになれるように。この思いこそが当社の存在価値。ここを起点にして、当たり前をちゃんとやる、常にプロフェッショナルである、卓越した安全安心力を発揮する、喜びを与え豊かさを創る、人のためになることをする。これらを実践していけたらと思っています。

— 良い関係性を構築されていることが会社の雰囲気からも伝わってきますよ。お話も尽きませんが、最後に5年後、10年後の目標をお聞かせください。

社会にとって、絶対になくはならない企業にしていきたいですね。そのためには、まず社会に迷惑をかけること。法令を遵守し、社会に貢献し、地域の皆さんに「助かる」「ありがとう」と言ってもらえるような会社を目指して参ります。また、私は今49歳ですが、あまり長く経営に携わると後進が育ちませんし、先のことも考えて計画を立てていきたいですね。

— 応援しています。本日はありがとうございました！

— まずは、松岡社長の歩みから伺います。

生まれは愛知県岡崎市ですが、生後間もなく三重県桑名市に移ったので、三重が地元のようなものです。学生時代はサッカー部に所属し、練習漬けの毎日でした。当社「ミライリスホールディングス」は、グループ7社を有する企業グループとして2022年に設立しましたが、そもそもの創業者は祖父で、その跡を父が継いでいたんです。私は長男で下には妹と弟がいるのですが、学生時代の私は家業を継ぐなど考えたこともありませんでした。

— 学業修了後はどのような道に進まれたのですか。

大阪にあるFA機器のメーカーに就職しました。けれども、そちらに勤めたのは1年半ほどと短い期間でしたね。というのも父がアイデア商品を作るのが好きなのですが、なかなか売れないから売ってこいと言われて。私としてはもう少しサラリーマンを続けたかったのですが、父から懇願されて勤めを辞め、行商を始めたんですよ。

— 行商というと、あちこちに行って商品

を売るという？

そうです。建設資材や古美術、健康器具など、様々な商品を車に積んで販売していました。ところが父が急逝してしまい、母が三代目としてその後を継ぐことになりました。それで、私も戻らざるを得なくなりました。母の下で仕事を始めたのは1999年のこと。そのころには、いずれ自分が会社を継ぐことになる、という覚悟もできていました。

— こちらはグループ7社のホールディングスということですが、各社ではどのような事業を展開されているのでしょうか。

建設現場で使用する資機材のレンタルと仮設工事、足場工事を主体に、物流も手掛けています。レンタルについては石油化学コンビナートや発電所の定期保全に使用するような資機材を提供し、現場が終われば撤収するということがメインになりますね。仮設工事は現場の事務所や倉庫、トイレなどの組み立てと解体。足場工事は建物の周りに作業がしやすいように足場を組み、工事が終わった後は解体するという仕



愛知県岡崎市で生まれ、生後間もなく三重県桑名市へ。学生時代はサッカーに打ち込み、大学卒業後はFA機器のメーカーに就職。1999年、先々代である父親が急逝したことを機に家業に戻り、代表を引き継いだ母親と共に事業を牽引する。現在は『ミライリスホールディングス』をはじめ、グループ会社の代表も兼務。